第５２集の発刊にあたって

昨年度は小学校、今年度は中学校において新学習指導要領が完全実施となりました。それに伴い教科書も新しくなりました。その内容を見てみますと、やはり、ＰＩＳＡ型学力の視点が随所に感じられます。先生方の率直な感想としては、「量が増えた。」あるいは「難しくなった。」との声が聞かれます。ゆとりの時代から学力向上へとの流れがはっきりと感じられる教科書になっているのです。

その一方、田川郡ではこれまで田川の実態に合わせようと、教科書よりもレベルを落としたり、必要以上にかみ砕いて取り組ませる場面が多く見られました。それだけに、今回の改定は、田川郡の教職員と子どもたちにとって一つの試練となっています。

ＰＩＳＡ型学力を調査する全国学力・学習状況調査において、田川郡は低迷が続いています。その原因を多方面にわたって探って来ました。原因として、出てくることがらは、炭鉱の閉山による生活基盤の崩壊、子どもたちの基本的生活習慣の乱れ等々、学校ではかかえきれない厳しいものです。その対策にかんばしいものはありません。

つまるところ、田川の厳しい学力実態の原因を家庭や地域に探していても、未来は開けないということが分かってきました。教師の指導力を向上させる。脇目を振らず、この一点に集中するしか方法はない。そのように腹を据える時機が到来したと思うのです。

今年度、研究所は従来の教育講演会をやめ、教育実践発表会を実施致しました。その中で、田川の厳しい実態をを言い訳とせず、素晴らしい成果をあげている先生が確実にいるということに光を見いだしました。そこには、情熱があり、徹底がありました。何よりも、プロフェッショナルとしての技と矜恃を感じました。

生きる力としての学力向上は、教師が、人間力・コミュニケーション力・学習指導力を十分発揮してこそ実現が可能なのだと確信したところです。

田川には、他にもまだそのような実践をされている方がいらっしゃいます。この５２集の紀要には、地道に努力を続けている先生方の実践が掲載されています。

予算の都合上ＣＤという形でしか配布できませんが、この紀要を見られた方は是非次の方に広めて頂きたいと存じます。

ソーシャルメディアの時代です。世界中の人とつながり、世界中から情報を集めることが出来るようになりました。しかし、様々なところから集めた教育情報を、田川郡にそのまま生かそうとしても難しい面があります。だからこそ、田川で実践されているローカル情報にこそ価値があると思うのです。

「幸せの青い鳥」は以外に近くにいるものです。身近で行われている貴重な実践に目を向け、田川郡に息づく実践を積み重ねていくことが重要です。

この紀要が、田川の未来を照らす灯火となれば幸いです。